

防災特集

家庭で防災対策していますか？



この写真は、令和元年に発生した台風15号による土砂崩れの様子です。崩落した道路のすぐ近くには住宅があります。
8月は台風の発生数が一番多い月。停電、土砂崩れ、浸水が身の回りで起こった時にどうしたら良いかを考えておきましょう。

日常的に「もしも」を 考える

災害が発生すると、電気・ガス・水道などのライフラインがストップすることがあります。その場合に備えて、最低3日分、できれば1週間分の食料品や日用品を備蓄し、災害に備えましょう。
例えば、食料品の備蓄をする場合、長期保存のできる保存食のほか、「ローリングストック」という方法があります。
「ローリングストック」とは、日

ごろから食料品を多めに買い置きし、古いものから順に使い、使った分を補充していく備蓄方法です。賞味期限もさほど気にならず備蓄量を維持できるのがこの方法のメリットです。
今年関東大震災からちょうど100年の節目にあたります。いっどこで災害が起こるか分からない今、できることから防災対策を始めることが大切です。そこで、今回は備蓄品と、町の避難所(町公民館)の備品を紹介します。

家庭でできる備蓄品の例

食料品

- 水(1人1日3リットルめやす)
- ご飯(アルファ米など)
- カップ麺
- レトルト食品
- 菓子
- 栄養補助食品



生活用品

- トイレットペーパー
- 使い捨てビニール手袋
- カセットコンロ・カセットボンベ
- カイロ・毛布
- モバイルバッテリー
- 懐中電灯
- 食品用ラップ

個人事情に必要なもの

- 常備薬
- 生理用品
- 粉ミルク・離乳食
- アレルギー対応食
- おむつ



避難所で用意している ものを一部紹介

町の指定避難所の一つである町公民館で避難所が開設されると、左の写真のような防災テントが設置される場合があります。間仕切りにより、周囲からの視線を遮ることができ、プライバシーを確保することができます。
今回は、実際に防災テントや段ボールだけで作るベッドを設営してみました。



▶ 防災テント内の簡易ベッドと段ボールベッドは、身長180センチ程度の方が横たわっても余裕があります。

▲ ベッドの中身には補強用段ボールが入っており、見た目より頑丈。

避難所に避難することだけが 避難ではありません

避難とは、「難」を「避」けることであり、避難所に避難するという意味だけではありません。自宅でも、土砂崩れや浸水の可能性が低い部屋に移動したり、自宅が危険な場合は、親せきの家を頼るなど、家庭によってさまざまな避難方法があります。また、避難生活は自助・共助が大切です。「自分の身は自分で守る」、「自分たちの地域は自分たちで守る」という考えを持ち、日ごろから災害に備えておくことが重要です。

令和5年度防災演習を実施します

防災演習は一般の方も自由に見学いただけます。また、エリアメール等を活用した住民参加型の訓練を予定しています。

場所 町役場駐車場、町公民館
日付 9月3日(日)



▲過去の訓練の様子

総務課 庶務係 ☎86-6082

町公式LINEと防災メールが連携開始

防災メールの内容が町公式LINEからも届くようになりました。

防災メールとは、町からの防災情報や気象情報などを、あらかじめ登録した携帯電話やパソコンへメールを配信するものです。

町公式LINEは、下記QRコードから友だち登録ができます。LINEアプリを使用していない方は、引き続き防災メールをご利用ください。



町公式LINE ▶



◀ 防災メールの登録方法

